

北海道医師会では、本道の地域保健等の向上・推進に資する調査研究活動への助成事業を実施しております。昨年度は以下7つの調査・研究に対して助成いたしました。

調査・研究内容については、北海道医師会ホームページに掲載しておりますのでご覧ください。

●掲載はこちら 北海道医師会トップページ → 北海道医報 → 2018年9月1日[第1200号]

■執筆者 古田 博文（札幌市医師会/札幌市学校医協議会）

テーマ 運動器健診の円滑な導入と今後の対応に関する検討

平成28年度から内科健診に追加された運動器健診にあたり、札幌市学校医協議会（内科）と札幌市整形外科医会が協議の上、初年度は事前の（運動器）問診表に「陽性」の記載のある者全員を要精検（整形外科）として引き続き現場での運用について検討することとした。

■執筆者 星井 桜子（札幌市医師会/札幌市学校医協議会検尿判定委員会）

テーマ 2017年度札幌市学校検尿成績報告

検尿一次陽性率4.1%、二次受検者の陽性率10.7%、要精検率0.40%と、ほぼ例年同様の結果であった。精検受診率は61.5%と低かった。精検後の病名は、無症候性血尿および無症候性蛋白尿の占める割合が多かった。

■執筆者 新谷 朋子、高木 摂夫（札幌市医師会/札幌市耳鼻咽喉科医会）

テーマ 耳鼻咽喉科学校健診結果の推移と全国定点検査との比較

札幌市内の小、中学校健診の平成19年度10年間の検診結果を検討し、平成29年度の定点調査の全国調査との比較を行った。

小学生と中学生の有所見率は、難聴、アレルギー性鼻炎、鼻中隔彎曲症の3項目以外は小学生の方が高かった。有所見率の5年平均値は小学生で24.6%、中学生で20.9%であった。全国定点調査と比較すると中学1年生の女子はほぼ同等であったが、小学1、4年生、中学1年生男子では全国より有所見者は少なかった。各年齢で約15-25%に何らかの所見が見られることによりスクリーニングとしての健診の必要性が伺われた。

■執筆者 水関 清、平田 博己、中島 滋夫（函館市医師会/函館動脈硬化懇談会）

テーマ 家族性高コレステロール血症におけるアキレス腱超音波像の検討

冠動脈疾患予防の観点から早期発見が望まれる家族性高コレステロール血症例のアキレス腱超音波像を検討した。前後径増大のほか、これまでに報告のない、前後径/左右径比の増大と脳回状の内部エコーの不整像も明瞭に捕えられ、超音波検査はX線検査の代替になり得ると考えられた。

■執筆者 結城 佳子、松田 慎司、若林 智、刀禰 聡美、佐古 和廣

（上川北部医師会/名寄市立大学コミュニティケア教育研究センター）

テーマ 過疎・寒冷豪雪地帯における移動能力実態調査（第2報）

過疎、寒冷積雪により移動能力制限に影響を与える環境にある地区を対象として、移動能力の季節的变化を把握することを目的とし、BMI・「ロコモ25」・ロコモ度テスト等を継続的に測定した。BMIは夏季に比して冬季に高く、「ロコモ25」得点は平均年齢の高い群で夏季に高かった。

■執筆者 渡辺 一彦、吾田 富士子、吉木 美恵、飯塚 進、古田 博文、菊田 英明

（北海道保育保健協議会）

テーマ 保育士の満足度及び課題に関する調査

今年度の調査は、道内の保育士に焦点をあて、給与、労働時間など労働環境の満足度と改善してほしい事柄、今後の習得したい知識、技術について調査した。保育士は様々な不満を抱えながらもやりがいを感じて意欲的に働いていた。「発達障がい児」「救命救急」等嘱託医として支援・協力すべき課題もあった。

■執筆者 今野 武津子（北海道小児科医会/札幌厚生病院小児科）

テーマ 50組の親子のピロリ菌株の抗菌薬感受性の比較検討 - 菌株遺伝子型との関連も含めて -

50組の親子のピロリ菌株のclarithromycin（CAM）感受性を検討し、親子菌株の一致率は52%であった。また、親子の菌株のMLSTによる遺伝子型とCAM感受性との関連では、遺伝子型が一致している親子の菌株でも感受性は必ずしも一致しなかった。耐性化はCAMへの曝露によって個々に獲得されると考えられた。